

# 平成29年度 ケア付き青森ねぶた じょっぱい隊 ボランティア活動報告



青森県立保健大学 地域連携・国際センター  
ケア付きねぶた推進委員会

## 目 次

ケア付き青森ねぶたの紹介、実行委員会との共催	P 1
ボランティア活動 準備編	P 3
ボランティア活動 当日編	P 6
ボランティア活動後 編	P 9
学生の思い・学び	P 19
ケア付きねぶた推進委員会活動概要	P 37

## 報告書の刊行に寄せて

青森県立保健大学 ケア付きねぶた推進委員会  
委員長 出雲 祐二

今年も青森ねぶた運行日の8月3日に、第22回目を迎えたケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”が出陣しました。ここには、全国から集まった障害を持つ方々が車椅子に乗って運行の行列に加わるとともに、本学の学生や教職員がボランティアとして参加し、祭りを大いに盛り上げました。本学ではこのボランティア活動を全学的な事業と位置づけ、毎年、学生と教職員が参加しています。



今年度の最大のトピックは、何と言っても、ケア付きねぶたの参加学生が3桁、すなわち100人を超えたことです。今年度は103人の学生が参加し、運行班、食料班、備品班、設営班に分かれて活躍してくれました。また教職員も31人が参加し、保健大学の専門性を活かした医療班やケア班などでも力を発揮してくれました。

しかし、学生や教職員が運行当日を迎えるまでには、長い道のりがあります。この事業の中核を担う「ケア付きねぶた推進委員会」では、各学科から選出された委員が4月から打合せと会議を重ね、本部である“じょっぱり隊”実行委員会と様々な調整を行い、ボランティア学生を募集し、学生向けの2回のボランティア講座とオリエンテーションを開催し、運行日前日の説明会を経て、ようやく運行日を迎えます。学生もこれらの講座や説明会に参加するのみならず、8月3日の運行日前々日まで定期試験があり、また前日は補講日で、試験勉強と試験そして補講を乗り切った果てに、このボランティア活動に至るわけです。今年度はこうした試練を乗り切った学生が103人も参加してくれ、また遅刻する学生も、不参加となる学生も一人も出ませんでした。

参加学生が多かった分、当日の活動は比較的スムーズにいったように思います。また、各班の学生を統括する教職員が適切に指示を出してくれおかげで、学生が車いすの参加者に話しかけたり、ご家族の話に耳を傾けたりという教育的なボランティア活動も今まで以上に行うことができました。さらに、前年までケア付きねぶたの推進委員として活躍してくれたOBが、応援で参加して下さったことも心強かったです。

さて、学生たちはどうしてこの活動に参加し、何を学ぶのでしょうか。それについては、この報告書で学生たちの気持ちが様々に語られています。活動した班によっては、学生が車椅子の参加者と直接触れ合う機会はなかったかもしれません。しかしながら、学生は様々な場面で祭りに参加していたことは事実です。祭りの本質は、直接的に体験している祭りという「状況」の中へ、人間が完全に「参加」しているという意識にあるように思います。その参加には、障害の有無はもとより、社会的地位や名声を得る手段とも無縁です。だからこそ、祭りへの「参加」は人間への「讃歌」になるのだと思います。

最後に、こうした活動機会を本学の学生と教職員に与えて下さった“じょっぱり隊”実行委員会の皆さまに感謝申し上げるとともに、様々にごんばって下さった本学の学生さんと教職員の皆さまに、心からお礼申し上げます。

本学がケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”のボランティア活動に積極的に取り組んで10年目となります。平成27年度から学長を顧問とし、教職員12名の委員で構成されるケア付きねぶた推進委員会が発足しました。チームで取り組んだ平成29年度のボランティア活動を報告いたします。

### ケア付き青森ねぶたの紹介

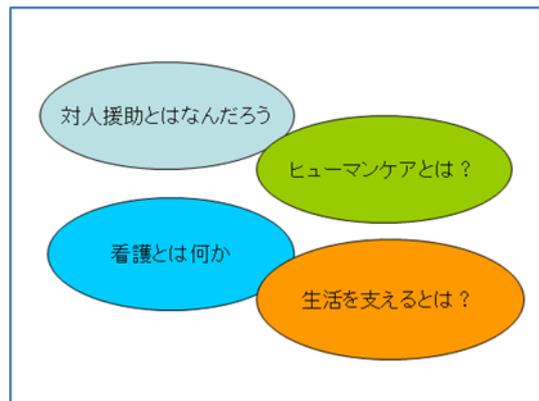
ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”とは、ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会との共催で、本学ではケア付きねぶた推進委員会の各委員が中心となり、所属する学科ごとの広報活動で集まった有志学生とともに取り組むボランティア活動を指します。本学では、これから専門職としての知識や技能を学んでいく学生にとって、このボランティア活動を通じてヒューマンケアを模索する上での原動力となり、さらには人として専門職として成長する貴重な機会につながることを願い、毎年の活動を行っています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”のボランティア活動を積極的に支援していることを、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持つ学生が多いようです。

**ヒューマンケアを提供できる人材育成**

ケアつきねぶたへのボランティア活動を通して、専門職としての知識や技術のみではなく、人間とは何かということに思いを巡らせ、病氣や障害を持つ人々の心を感じ取り、人に対して思いやりと温かさを持って接することができるようになって欲しい。感動を味わい感性を磨くことで自分を育てて欲しい、と願っています。

学長 リボウイツクよし子  
平成21年12月1日 公立大学協会60周年 記念シンポジウム  
「障害者ねぶた」へのボランティア活動を通しての教育 よし



### ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 実行委員会との共催

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”は平成8年から始まり、全国から参加者を募り年齢や障害の枠を超え青森ねぶたに車いすのまま参加できるよう保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行され、これまで毎年本学教職員数十名及び相当数の学生がボランティア参加してきています。保健・医療・福祉の専門職を志す本学の学生にとって、ケア付き青森ねぶたに参加し障害者や高齢者との交流及び介助を行うことは、貴重な体験であり極めて学習的意義があります。

このため、本学では平成20年度から大学組織として協力しています。地域連携・国際センター事業としてボランティア養成講座を開催し、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅰの単位認定科目とするとともに、学生がより積極的にボランティア活動を行うことができる環境を整えています。

平成25年度からは、学部協力のもと、ボランティア活動日及び報告会についても、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅱとして単位認定しています。



## ボランティア活動 準備編

### 6月9日（金）：第1回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成29年6月9日（金）  
17時10分～18時10分

場 所：A112 教室

参加学生：60名

内 容：講演・体験発表

① 講演

「ボランティアとは」

講師：社会福祉学科 杉山克己 教授

② 体験発表

発表者：7名(運行班・食料班・設営班・備品班)

昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。

ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的な活動内容等について理解を深めました。



平成29年度 第1回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	21	6	0	0	27
理学療法学科	5	0	0	0	5
社会福祉学科	17	0	0	0	17
栄養学科	11	0	0	0	11
計	54	6	0	0	60

### 7月22日（土）：第2回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成29年7月22日（土）10時～10時40分

場 所：A111 教室

テーマ：「ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動」

講 師：平川若菜氏、櫻田 優氏（高齢者総合福祉施設清風荘）他

参加学生：94名

ケア付き青森ねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いを知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲につながりました。また、養成講座終了後、じょっぱり隊参加についてのオリエンテーションを実施しました。



平成29年度 第2回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	37	7	1	0	94
理学療法学科	12				
社会福祉学科	20				
栄養学科	17				
計	86	7	1	0	94

**ボランティア募集 5月27日(土)～**

第1回ボランティア養成講座実施前にチラシ配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教職員会議で参加を呼びかけ、ケア付きねぶた推進委員会からボランティア参加の案内をしました。7月10日(月)のボランティア募集締切り時には、学生103名、教職員31名の申し込みがありました。

**ボランティアのしおり作成**

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月頃から大学独自のボランティアのしおり作成に取り掛かりました。前年度に作成したしおりを元に、実行委員会より報告された変更点や、昨年度の反省を生かし、全体スケジュールや班ごとの心得・動きについて修正・加筆し完成となり、7月22日のオリエンテーションで学生ボランティアに配布しました。

**ボランティア オリエンテーション 7月22日(土)**

7月22日(土)10時45分～12時に、A棟1階A111教室で学生ボランティアを対象としたオリエンテーションを行いました。ここでは、ボランティアのしおりを全員に配布し、内容について説明するとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。その他、班分け(暫定)の確認や、班ごとの役割の確認、MSメールの使用について説明しました。

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会のスタッフの方々からは、車椅子の押し方、隊列運行や「ラッセラー」という掛け声の出し方についてご指導・助言をいただき、本番へ向け、活動のイメージをつけることができました。

## ボランティア直前説明会 8月2日(水)

昨年度に引き続き、教職員と学生ボランティアへのオリエンテーションを、日時を変えて別々に実施しました。学生には前期試験が終了した8月2日(火) 10時30分～12時にA棟3階A305教室で行い、教職員には同日13時～13時30分にC棟2階N講義室1で行い、全体の流れ、バス乗車時間について、また、それぞれの役割および留意点について説明をしました。実行委員会からいただいた“じょっぱり隊ポケットガイド”を学生と教職員に配布しました。

学生ボランティアの直前説明会では、最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明を行い、その後、班ごとに分かれて打ち合わせを行いました。ボランティア活動を翌日に控え、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネトとなる運行班は、車椅子の操作方法についての実演や、着付けについて教職員から説明を受けて練習をしました。初めての経験に戸惑う学生もいましたが次第に慣れてきて、全員元気良く、生き生きとした表情で練習に取り組んでいました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当する参加者情報を伝えました。このことにより、事前に身体状況や生活状況をアセスメントして当日を迎えることができました。



## 医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として大西基喜特任教授(看護学科)と渡部一郎教授(理学療法学科)、看護師として角濱春美教授と小池祥太郎講師(看護学科)にご協力いただきました。

## 定例記者発表 7月26日(水)

本学が開催する定例記者発表で、ケア付き青森ねぶた出陣について記者の方々にPRしました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。

## ボランティア 当日編（8月3日）

### 運行班

学生へのオリエンテーションや当日の練習では、みな大きな声を出し跳ねたことから本部の人が驚いていた。「今年もいける！」と思った。しかし、昨年までと大きく変わったことがあった。大学のオリジナル振り付けがなくなったこと、それに伴って参加者の方々と太鼓で仕切られて離れてしまうという隊列の変更があった。跳ね続けなければならない？ 疲れるのでは？ 「どうしよう」と思ったが、とにかくけがなどしないで皆が楽しむことができればよいと願った。

当日は集合時間に遅れる学生もなく大型バスで県民福祉プラザに到着。到着後本部の方から、「学生を3人選んでほしい」との要請があり、3年生と2年生の学生を選出。その後「もう一人お願いします」と1年生一人を選出。何をやるのかとっていると、「選手宣誓」と「伊調馨さんの代わりにテーマの発表」の任務。“元気よく、笑顔で、楽しく”との本部の希望通り、大役を終えることができた。急なお願いにも関わらず、快く承諾してくれた学生の方々に感謝です。

出陣に向け、出陣場所に移動し、隊列を整え、車いす隊と跳人隊に分かれる。出発の合図とともに囃子が始まり、いざ出発！ 車いす隊は参加者の方の車いすを押し、のぼり隊はのぼりを持ち、前ねぶた、給水係とそれぞれ自分達の仕事を最後までやり遂げた。跳人隊は車いすの参加者を見ることもなく、後ろから迫ってくる一般参加の跳人とねぶたにドキドキし、ゆっくりめの掛け声に合わせながら一生懸命跳ねた。顔を紅潮させながら「ラセララ・ラセララ」と声を出し跳ねている姿に感動した。また、運行が終わっても参加者の方々に気を配り、ご家族の方ともよくコミュニケーションをとり笑顔で接していた。学生の皆さんの元気と優しさに感心した。さすが本学の学生！ とても充実したやりがいのあるボランティア活動です。皆さん、また来年も一緒に参加して楽しみましょう！！



### 食料班

1年生10名、教員2名が食料班として活動しました。主な活動内容は、昼食（カレーライス）と打ち上げ料理（から揚げ、おにぎり等）の準備、配膳でした。終始時間に追われながらも、参加者の皆様が喜んでいただけるよう心を込めて作業にあたりました。「ありがとう」「おいしかったよ」といった声を励みに、無事食料班としての任務を終えることができました。ケア付きねぶたを「食」から支えるボランティアに携われたことに感謝します。



## 備品班

今年度は 17 名の学生が備品班として活動に参加しました。備品班の仕事は、ねぶた衣装の受け渡し、運行時に使用する物品・機材の管理とメンテナンス、必要物品の搬送作業などです。午前中は、衣装受け渡しの際の注意事項について説明を受け、実際の受け渡し場面のリハーサルをして本番に備えました。全員が初めて経験する作業でしたので、最初は動きもぎこちなく、声も小さかったのですが、リハーサルを繰り返すうちに少しずつ「様（さま）」になっていきましたね。



備品班の活動は、運行前後に集中するため、参加者の方々と直接関われる時間は少なく、学生には少し心残りだったかもしれません（来年は運行班でご参加ください！）。それでも、じょっぱり隊を成功させるためには備品班のような裏方の存在があること、そして、そのような存在も参加者の思い出づくりに欠かせないということを感じてくれたのでは？と思います。

## 設営班

今年度は 14 名の学生が参加しました。設営班では、福祉プラザにおける昼食会場の設営と撤去作業、大型車両への搬送物の積み込み作業、青い森公園における大型テントの設営及び撤去作業が主な仕事でした。



当日は進捗状況に応じた作業となったため、仕事を待つというよりも、その場の状況に応じた能動的な取り組みが要求されました。待機時間も不規則でしたが、班員の学生はお互いに声を掛け合いながら仕事をこなし、疲れた表情も見せず作業を行っておりました。活動の後半に差し掛かると、手が空いた時間帯に食事班の運搬を手伝うなど、自主的な活動姿勢もみられるようになり、学生の献身的に取り組む姿勢には深く感心させられました。

設営班は裏方の仕事ではありますが、他の班が円滑に活動できるように、班員全員で迅速な作業を心掛けて実施できたと思います。

## 医療班

大学からは、医師の資格を持つ教員 2 名と、看護師の資格を持つ教員 2 名が参加しました。診察の付き添いや食事、着替えや体位の調整を行いました。1 年ぶりにお会いする参加者の方々が、今年もお元気で、歩く距離が伸びたり、食べられるようになったり、言葉が出るようになったりしている様子を目の当たりにし、こちらも勇気づけられました。

ケア班で担当になっている学生ボランティアの方々が、積極的に参加者やご家族とコミュニケーションを取っていたのが印象に残りました。互いに楽しい、貴重な時間になったと思います。また、必要な時に医療班に速やかに相談してくれたことで、早めの対処をすることもでき、安全な参加に結びついたと感じました。

## ボランティア参加者数の推移（人）

年度	学生	教職員	計
平成 20 年度	49	8	57
平成 21 年度	82	8	90
平成 22 年度	38	16	54
平成 23 年度	72	23	95
平成 24 年度	67	29	96
平成 25 年度	67	32	99
平成 26 年度	66	34	100
平成 27 年度	83	29	112
平成 28 年度	72	35	107
平成 29 年度	103	31	134

## ボランティア活動内容

種類	主な役割
<b>運行班</b> 通称: 熱く燃え隊	ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。
<b>医療班</b> 通称: 命預け隊	事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるよう目配りをする役割をします。
<b>ケア班(班担当班)</b> 通称: 仲良くし隊	衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。
<b>食料班</b> 通称: ごちそうし隊	皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。
<b>備品班</b> 通称: なんでも揃え隊	ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。
<b>設営班</b> 通称: 重いもの持ち隊	待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。
<b>着付け班</b> 通称: 上手に着せ隊	参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。

## ボランティア活動後 編

### 活動を振り返る会 8月4日(金)

本会の趣旨は、ケア付き青森ねぶたのボランティア活動について、各班のなかでうまくできたこと、でのできなかったことを、熱い思いが途切れる前に学生みんなで共有し、意味づけをすることで今後のボランティア活動を発展させたいというのが本会のねらいです。

開催日は昨年度と同様にボランティア活動の翌日となりました。今年度は、学生側の疲労も残る中で、より多くの学生に参加してもらい、振り返りを例年よりも活性化させるため、開催時間を1時間程度に短縮しての実施となりました。また、ボランティア活動を通じた学生側の幅広い意見を集約するために、Web上でのアンケート調査を試験的に導入し、スマートフォンなどで回答を実施しました。

振り返る会の当日は、運行班からは25名、食料班から9名、備品班からは7名、設営班からは9名の計50名となり、当日にボランティア参加した約半数に及ぶ学生が参加となりました。振り返る会の進行は、運行班、食料班、備品班、設営班のうち、運行班を2グループに分けた計5グループで、グループワークを実施しました。グループワークでは、①ボランティア活動に参加しての感想や学んだと思う点、②当日の活動で良かった点、③当日の活動での反省点について、30分程度での話し合いと簡単な資料の作成を行いました。その後、各グループの作成資料を利用した口述発表と意見交換を行いました。各グループの学生は、短い作業時間の中でもお互いの意見を積極的に出し合い、積極的に取り組む姿がみられました。また、当日は班ごとで活動するため、お互いの仕事が見えない側面もあるようでしたが、発表を通じたお互いの仕事に対する共感や理解が深まったようです。

アンケートの回答率は103名中の89名が回答し、86.4%となりました。ボランティア参加の経験では、過去にボランティア経験のある学生が中心でしたが、全体の約3割の学生は(28.1%)今回が「はじめて」の活動であると回答しました。ねぶたの魅力に関する回答では、「触れられた」と感じる学生が98.9%であり、満足度も「非常に満足」、「とても満足」、「満足」の回答が96.5%でした。また、「今後の職業に役立つか？」に対する回答では「非常に思う」、「とても思う」が82.0%、「次年度も参加したい」と回答した学生も87.6%であり、8割以上を占める学生が肯定的な回答でした。

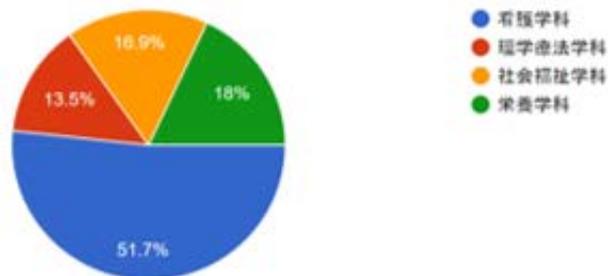
振り返る会に参加した学生は、自身の経験をしっかり消化・吸収でき一回り大きく成長できたようです。また、今回のアンケート結果を受けて、じょっぱり隊の活動が、参加した学生のボランティア活動への芽生えや、職業倫理観の形成、そしてねぶた文化の啓蒙促進に寄与する活動であることが改めて分かりました。



ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” Web アンケート集計結果  
アンケート回答期間：2017年8月4日から2017年8月11日  
回答数：89名（86.4%）

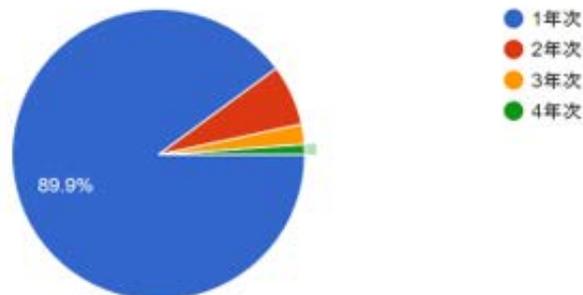
Q1.所属学科を選択してください。

89件の回答



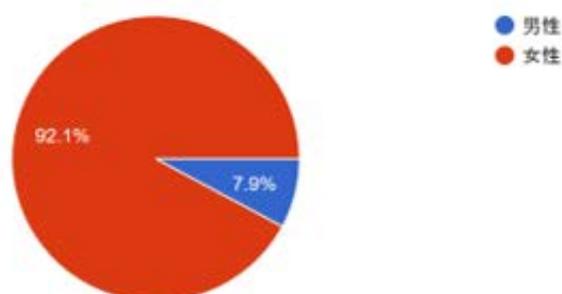
Q2.該当する年次を選択してください。

89件の回答



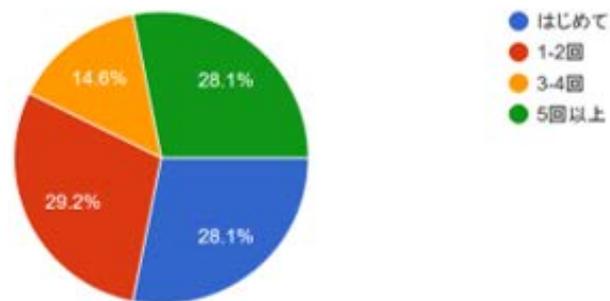
Q3.性別を選択してください。

89件の回答



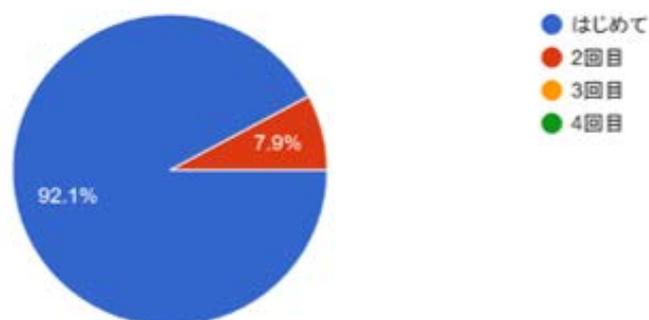
#### Q4.今までにボランティア活動をしたことはありますか？

89件の回答



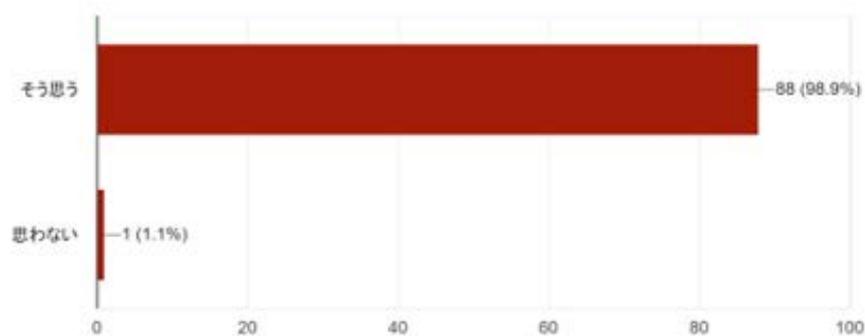
#### Q5.「ケア付きねぶた」へのボランティア参加は今回がはじめてですか？

89件の回答



#### Q6.今回の参加を通じて、「ねぶた」の魅力に触れられたと思いますか？

89件の回答

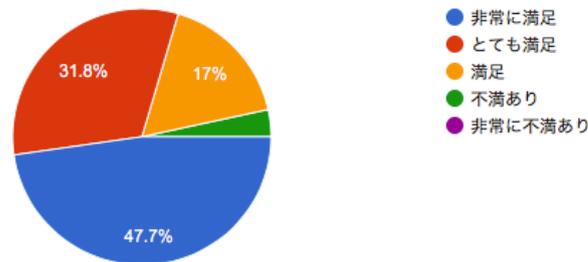


#### Q6-1.それはどのような点ですか？あなたの考えを教えてください（抜粋）

- 沿道にいるお客さんの笑顔を見て、この笑顔のためにねぶたがあるんだと感ずることができた。
- ねぶたならではの盛り上がりを感じることができた
- 参加者の方が「ねぶたは人をつなぐ」とおっしゃっていて、本当にその通りだと感ずました。
- 障害者の方々や、スタッフの方がとても生き生きしている様子を拝見し、ねぶたには人々を奮立たせるものがあると感じたから。
- ねぶたをただ見るだけでなく、はねることができ、見るだけでは味わえないねぶたの楽しさを知ることができたから。
- 知らない観客と絡むことができ、ねぶたの面白さを共有できる。
- 皆が一丸となって祭りを作り上げている点。
- ねぶたを観客として見るのではなく、ボランティアとして参加したことで、ねぶたにかける熱い思いを知ることができたから。
- ねぶたは多くの人々の協力によって成り立っているという点。
- 沿道の方々も一緒になって掛け声をしてくれたので、ねぶたの一体感を感じられた。
- 参加者(障がい者、高齢者)が楽しそうにしていたこと。
- 全国各地から様々な方が来てくださり、青森のねぶたを盛り上げようと、知らない人と一緒に盛り上がっていたので、ねぶたを通しての人と人とのつながりはとても深いものだと感じたから。
- ねぶた祭自体のスケールと、体に響く太鼓の音。
- 助け合い。また、看護学科としての視点をいかす場面が多くやりがいを感じられた。
- 様々な班があり、それぞれが活動することでケア付きねぶたが実行出来ていると実感した点。
- 実際に裏方の仕事も体験できたから。
- ねぶたに参加したことで観覧するのとは違った視点でねぶたを見ることが出来たと思うから。
- 障がい者やその家族と楽しむことが出来たところ。
- どんな人でも参加できて、楽しめる点。
- ねぶたにはいろいろなドラマがあること。
- 多くの人々の支えがあるからこそあのようなねぶたができるという点。
- 車いすでもねぶたに参加することはできると知った点。それをサポートできる人、したい人がいると知った点。
- 性別、人種、年齢、障害などに関係なく全ての人々がねぶたを通して輝いていて鳥肌が立ちました。
- ねぶたでゆかたの着付けや花笠を着用したことなど、伝統的な祭りだと感ずることができた点。また、ねぶたは初めて見ましたが、参加者だけではなくねぶたを見ている人たちも一緒になって楽しんでいて良かった点です。

## Q7. 「ケア付きねぶた」のボランティアに参加しての満足度はどれに当てはまりますか？

88 responses



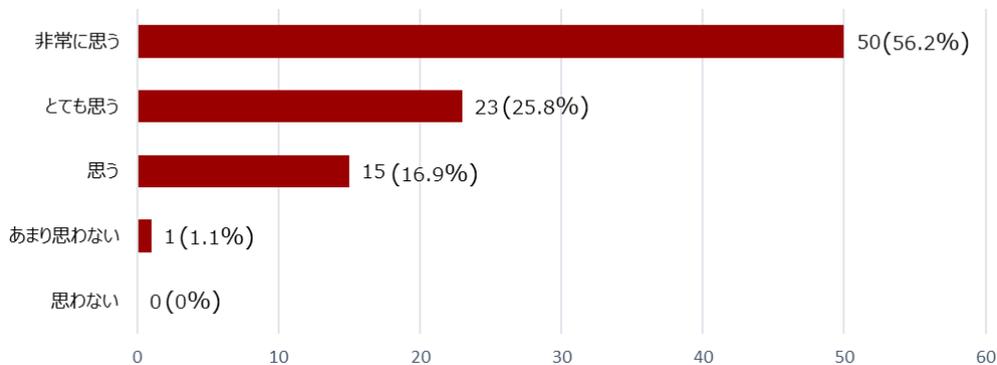
### Q7-1.それはどのような点ですか？あなたの考えを教えてください（抜粋）

- 運行班が参加者さんと一緒にねぶたに出ているのを見てすごく感動したし、関係者の一生懸命さに、じょっぱりの絆の強さを強く感じたから。
- 新しい出会いがたくさんあって良かった。
- 参加者の方が楽しかったと言ってくれたのが一番嬉しかったです。
- 参加者さんと家族の方とコミュニケーションをとり、ハネトとして参加した点。
- 誰かの役に立てていることを実感できた点。
- 普段は体験することのできない大量調理ができたり、人の視線にたって声かけをすることの大切さを感じたりすることができたから。
- 参加者の方と触れ合え、ねぶた祭りを一緒に楽しめたという点。
- とにかくとても楽しかった。社会に出る前に障がい者の方とたくさんふれあい、ご家族の皆さんと話し合うことでご家族の方の気持ちが知れるしどんな思いでここまでやってこられたのか、私も考えさせられることが多かった。ただ落ち込んでいるわけじゃない。それを乗り越えてご家族で楽しいことの方を倍にして生きている感じがすごく感動した。
- 参加者さんから色々な事を教えて貰った点。人生の先輩として、たくさんのアドバイスをもらった。
- 利用者(相手一)の立場になって物事を考えるようになった。
- ただねぶたを見るだけではわからない裏での支えや参加者さんの人生に触れられたから。
- 充実した活動。参加者の方々が無事に一周回ってきたときに、裏方ながらとても嬉しく感じました。また、障害のあるとはどのようなものでそのご家族もどのように感じられているのかを少しだけ知ることができた。
- 1日中の長丁場で疲労がありながらも、一つ一つ仕事をこなす事に達成感を感じられたから。
- 障害者に対しての印象がいい意味で変わった点。
- また、一緒にねぶたを楽しむことができた点。
- 普段関わる機会が少ない障害を持った方やその家族と会話をし、触れ合えること。そこから人と関わる大切さを学んだ。

- 参加者の笑顔が見れた点。
- 地域活動に貢献していると感じられるところ。
- 裏方も含めた一連の動きでねぶたが成り立っていることを実感できたから。
- 自分だけでなく、高齢者や障害のある方も一緒に楽しむことが出来たから。また、この行事を楽しみに毎年参加してる方々も大勢おり、青森の魅力に触れてもらいながら思いっきり楽しんでほしいと感じられたから。
- 参加者の方のエピソードを聞いて感動したりやりがいを感じたりしたこと。
- 「ごちそうさま」「美味しかった」「ありがとう」を言われた点。
- 社会の役に立てたと感じた。
- 昼食時に参加者がどんな思いでねぶたに参加してるのかなどの意気込みを聞けたから。

#### Q8.「ケア付きねぶた」でのボランティア活動は、今後の目指す職業において役立つと思いますか？

89件の回答



##### Q8-1.それはどのような点ですか？あなたの考えを教えてください（抜粋）

- 一緒に参加した友人が、参加者さんのため、自分に何ができるのか悩みながら考えている姿を見たから。
- 参加者に合った方法でねぶたに参加することから、適切な対応を考えることが役立つのではと思います。
- 周りを見て自分がやるべき仕事を見つける力がついた。
- 高齢者、障害者の方とのコミュニケーションの取り方が学べるという点。
- 人とコミュニケーションをとる、集団行動。
- 参加者の方とのコミュニケーションの取り方やどうして参加しようとおもったのかという家族や障害を持った方本人の考えを聞くことができた点。
- 視野を広くし、相手のことを考えて行動すること。
- 普段関わりのない障がい者の方と関わることで、少しでも知ることができる。
- 向き合うのは障がい者の方ではないということ。家族支援がとても大事だということが分かったから。社会に出ても、視点は患者だけではなく周りの背景（家族や生活環境など）をしっかりと踏まえ把握した上で予防や治療をしていきたいと思った。
- 障害のある方、そのご家族の方の心情などをふれあうことで知ることができる。介助をするなかで今まで授業で学んだことをそのまま生かすことができ、実戦経験を得ることがで

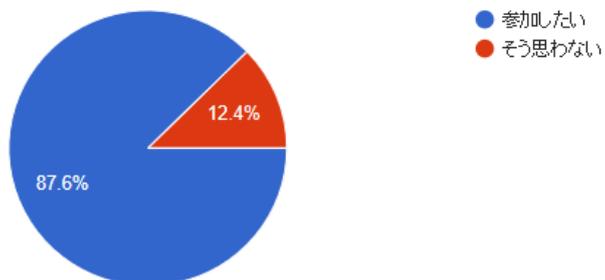
きる。

- 皆が不便を感じないようにしっかりと準備しておく点。
- 実際に障害がある人に必要なケアが知れた点。
- 参加者の活動を支えるうえで必要な視点を学ぶことができた点。
- 障害者に対してどのような支援が必要になってくるか実際に見ることができた点。
- 実際に車椅子を押して高齢者の方と関わったこと。
- 参加者さんとの交流の仕方など、実際に自分で感じる事が出来るから。
- 直接ケアだけでなく間接的にもケアすることができたと思うから。
- 今回のことを生かして病院内での企画や運営を考えられそう。
- 障害を持つ方とどのように接していけばよいのか学ぶことができた点。
- 周りを見て、先を読んでサポートするところ。
- 今、相手は何を必要としているのかなど常に気配りを意識することができたところ。
- 嚥下食を初めて食べたり、実際に管理栄養士さんと一緒に仕事をして、食に対する情熱と責任能力の強さを実感しました。
- たくさんの人と話すことでコミュニケーション力が身につくことができる点。障がい者との接し方を学ぶことができる点。
- 参加者との関わり方、家族と関わり方を身をもって経験できるため。
- 嚥下が困難な方にも楽しんで食事ができるような工夫を考える点。



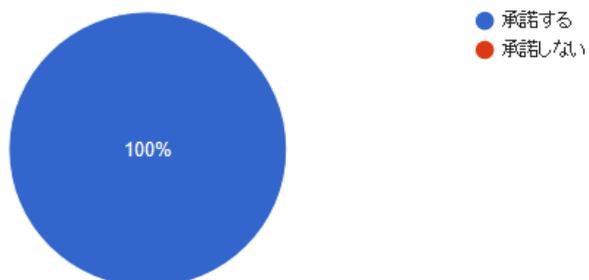
Q9.「ケア付きねぶた」に次年度も参加してみたいと思いますか？

89 件の回答



Q10.ボランティア活動をより良いものにするために、今回のアンケート結果を活用しても良いですか？

89 件の回答





ボランティア募集 7月10日(月)締切

ケア付き青森ねぶた  
じよつぱり隊

2017



八月三日(木)出陣

【平成29年度ボランティア活動までの流れ(予定)】

- 6月 9日(金) 17:10~18:10 第1回ボランティア養成講座【A112教室】
  - 7月22日(土) 10:00~10:40 第2回ボランティア養成講座【A111教室】(※)
  - 10:45~12:00 オリエンテーション【A111教室】(※)
  - 8月 2日(水) 10:30~12:00 直前説明会【A305教室】(※)
  - 8月 3日(木) 終日 ボランティア活動(8:30大学出発、22:30大学帰着)
  - 8月 4日(金) 11:00~12:00 ボランティア活動報告会【A112教室】(※)
- 8月3日ボランティア活動に参加する学生は、(※)は極力参加してください。  
(※)の参加が難しい場合は、あらかじめ下記の教職員に相談してください。

看護学科：谷川、石田(兼) 理学療法学科：漆畑、マイケル・スミス  
社会福祉学科：児玉、岡田 栄養学科：大野、小笠原メリッサ 地域連携推進課：佐藤

- ◆申込方法◆ 申込用紙を地域連携推進課まで提出してください。(5月29日受付開始)  
申込用紙は地域連携推進課・教務学生課の窓口で配布しています。
- ◆お問合せ◆ ケア付きねぶた推進委員会



# Press Release



報道関係者各位

平成 29 年 7 月 26 日  
青森県立保健大学

## 第 22 回ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 8 月 3 日（木）出陣

### I. ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動は、今年度で 22 周年を迎えます。年齢や障害の枠を超え日本の火祭り“青森ねぶた”に誰もが自分らしく祭りを楽しめるように、介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、全国の障害のある方々のねぶたへの参加を支援します。

第 22 回テーマ『なにもしなければ なにも得られない 失敗をおそれず 夢の第一歩を踏み出そう』

ご提案：国民栄誉賞受賞 伊藤 馨氏

出陣：8月3日（木）

主催：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会

共催：青森県立保健大学

### II. ボランティア養成講座

本学では、ケア付き青森ねぶたに参加する学生に、ボランティア養成講座（全 2 回）を受講してもらいます。本講座は保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義Ⅰの単位認定講座とし、大学をあげてボランティア活動をサポートしています。

ボランティアマインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動となると、少しの勇気ときっかけ、知識が必要です。そのため、ボランティアとは何か、ケア付きねぶたの活動概要・意義やねぶたの文化や伝統などについて学びます。

第 1 回 6 月 9 日（金）、第 2 回 7 月 22 日（土）

### III. 本学のボランティア参加者

学生ボランティア 103 名、教職員 31 名、合計 134 名（7/12 時点）が参加します。学生ボランティアが事故なく活動できるよう教職員 12 名で構成する委員会を設置し、強力にサポートしています。

### IV. プライマリーケア

引き続き、プライマリーケアを実施します。参加者（障害者）、付添いのご家族、ボランティア経験者、本学学生ボランティア（運行班 30 名）がチームとなり、参加者の情報を共有し、参加者をあらゆる角度から見守ります。

チームは、参加者の到着（10:00）から解散（21:00）まで共に行動します。参加者は様々な疾患があるため、学生ボランティアはあらかじめ参加者の疾患に関する情報を学習して臨みます。

問い合わせ\*\*\*\*\*

青森県立保健大学

T030-8505 青森市浜館町 58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当：ケア付きねぶた推進委員会委員長 出雲 祐二

事務局地域連携推進課 佐藤 知恵子

\*\*\*\*\*

# 学生の思い・学び

## ボランティア申込み時の学生の思い(抜粋)

- ・ 青森市民として、ケアさせていただく人々とねぶたを楽しめるように魅力を伝えていけたら嬉しいです。スムーズな運行に貢献したいです。
- ・ 私はこのボランティアをするにあたって、少しでもねぶたの支えになれるよう周りの様子をよく見て自分で仕事を見つけて人々の支えになれるようがんばります。
- ・ 私は今まで一度もねぶたを見たことがなくて、この活動に参加することで、ねぶたをみることや、ねぶたの裏側の活動を知ること、様々な人とのふれあいを体験したいと思っています。
- ・ ねぶたをまだ見たことがないので、今回ボランティア活動をしながら見たい。また、入学前から、大学のパンフレットにあったケア付きねぶたがずっとときになっていたの、ぜひ参加して、誰かのために何かしたい。
- ・ しょうがいを持っている方とふれあいながら行事に参加できることをとても楽しみにおもっています。全力で取り組みたいです。
- ・ 今年の4月に青森に来て、初めて参加します。この経験によってたくさんの人と触れ合い、コミュニケーションをとる中で様々な事を学びたいと思いました。
- ・ ねぶたに興味があったため、ボランティアを通してねぶたについて詳しく知り、積極的に祭りの補助をしたいと思っています。
- ・ 身体の不自由、関係なしと一緒に青森の有名なねぶたに参加し楽しみたい。このボランティアに参加することで、もっと障害者に対する知識を深められたらいいと思う。
- ・ 保健大を受験しようと思うきっかけの1つとしてこのボランティアがありました。県外出身者なので青森県を知る良い機会にもなると思うのでがんばります。
- ・ ずっと前から参加したかったねぶた祭りに、じょっぱり隊のボランティアとして参加できるので、祭りを楽しむのはもちろん、裏方の仕事を経験し、より深くねぶた祭りに関わっていきたいと思います。
- ・ 本学に入学する以前からこのボランティアを知っており、入学した際には必ず参加したいと考えていました。多くの人々と関わりを持つことで自分自身のさらなる成長につなげていきたいと思っています。
- ・ ボランティアに興味があり、入学した際に参加したいと考えていました。ボランティアを通してたくさんの方々と交流を深め、自身の成長につなげていきたいです。
- ・ 入学前から興味をもって参加したいと思っていましたが、去年はできなかったのが今年参加することにしました。1年間の学びを生かして、参加者の方々と関わり、一緒に楽しんで素敵な夏の思い出を作りたいです。
- ・ 高校時代ボランティアに参加することが一度もなかったので、大学生活では参加したい。また、ねぶたに参加することで祭りを盛り上げたい。
- ・ 去年参加して、ボランティアに対する考えが大きく変わりました。ケアつきに参加する人の思いを今年も感じ、自分の中でまた成長するものがあればと思います。
- ・ 今までねぶたに参加したことは何回かありますが、ボランティアとして参加したことはありませんでした。誰かのために働きながらねぶたに参加したいと思います。
- ・ 今までボランティアの経験がなく、なかなか参加できずにいましたが、ケア付きねぶたを通して、自分にとっても良い経験になればいいと思います。
- ・ ねぶたには初めて参加しますが、まず自分が楽しめるように頑張ります。責任をもって自分の仕事は

やりとげたいと思います。

- 私は高校の3年間とそれ以前もハネトとしてねぶたに参加してきました。そんな地元愛をみなさんに伝え、一緒に楽しめるように活動していきます！
- 大学入学前から保健大学のじょっぱり隊に憧れていて、今回初めてですが、たくさんの人と交流して祭りを盛り上げられるように一生懸命頑張りたいです。
- 県外から保健大学に進学したため、ねぶた祭りに参加したことはありません。なので、全ての経験が初めてですが、ボランティアとしてねぶた祭りに参加し、少しでも多くの人々の役に立つ活動をしたと思っています。
- 県外出身の私にとって初めての青森ねぶたとなるので、ねぶたの雰囲気や五感を感じ、ボランティアを通じて楽しみながら過ごしたいと思う。
- 初めて青森県の伝統的な祭りであるねぶた祭りにたずさわることができ、ボランティアを通して参加できることに誇りを持ってたくさんを学びたいです。
- 今回、私自身青森県出身ではないためねぶたをしっかりと知らないことと、保健大に入学してからの大きなボランティアということの緊張から、不安なところもあるのですが、一生懸命頑張りたいです。
- この大学の志望理由の一つでもある”じょっぱり隊”に参加して、様々な人とのコミュニケーションを図って協力し合うことで、もっと人間として大きく成長したい！
- 県外出身のため、こうした伝統的なお祭りに自分自身が参加することができる機会は滅多にないと思い、参加したいと思いました。また、障害を持つ人達とお話できるという機会も大切にしたいと考えています。
- 初めて参加するのでどんなものかドキドキしますが、できることは自分から進んで行動していきたいと思っています。
- たくさんの人と関わることができる大きな活動だと思うので、たくさんの人とコミュニケーションをとりながら積極的に行動したいです。
- 今回の活動を通し、一緒に参加するメンバーと協力する協調性をそしてお祭りに来た人への奉仕精神を学び身につけていきたいと思う。初めての”ねぶた”なので自分も楽しみつつ、他の人にはもっと楽しんでもらえるように努めたい。
- この学校でしかできないボランティアなので、とても楽しみです。頑張ります！
- 保健大学に入る前から、じょっぱり隊の活動に興味があり、今回参加できることが楽しみです。地域の人とつながりを広げ盛りあげ、たくさんの人を支えたいです。
- ボランティア活動を通して、授業では学ぶことができない生の地域との関わりを体験したいです。また、自分の役割に責任を持ち、仲間と協力しながら仕事をする大変さや達成感を味わいたい。
- 障がいのある方も参加できるようにケアするというのが素晴らしい活動だと思い入学前から気になっていた。



## 第1回ボランティア養成講座参加後の感想(抜粋)

- ・ ボランティアは自分で選択して、参加するものであるから仕事に責任をもつべきであることを実感した。ケア付きねぶたの参加学生による体験談の発表を聞いて、一年時の、専門的な知識が少ない時期の参加でも学ぶことや、経験が増えると思った。楽しさや達成感を感じながら、自分の仕事、役割をこなしていたことにすごいなと思った。
- ・ 私は去年、じょっぱり隊には参加せず、ねぶた当日にじょっぱり隊のねぶたを引く勇姿を沿道から見ていました。当日のじょっぱり隊の勇姿はすばらしく、後日参加した友人から当日の話と当日に至るまでの話を聞いたところ、すばらしい勇姿の裏には、たくさんの支える人達と本人達のがんばりで構成されているんだと知りました。今日の講義をきいて、ボランティアの由来から、ボランティアの種類、迷惑なボランティアなど、今までの私の中でのボランティアの知識が補強されたり覆されたりしました。また2年生の参加者達からの去年のじょっぱり隊の話は、本人達の体験談からそこに至るまでの話、今年参加するなら気をつけるべきことまで、とても興味深く、おもしろいものばかりでした。
- ・ ボランティアという言葉はよく聞くし、誰かに言われてやるものではなく自発的にやるものということは知っていたが、利他性の部分の重要性を改めて感じさせられた。全員がいつでも感謝されるわけではないが、ボランティアを通して他の人の役に立ったり自分も成長できるところがあると思う。
- ・ 私は去年ケア付きねぶたのボランティアに参加できなかったし、県外から来ているのにもかかわらず青森のねぶたを観にも行けなかったのが、今年すごく楽しみにしています。1年間の学びも生かして参加者さんとコミュニケーションをとりたいと思います。2年生は車イスを押しながらはねととの運行に参加していると聞いています。参加者さんと楽しみながらも安全にできたら良いなと思います。
- ・ 今回のボランティア養成講座では、「ボランティア」とは何かとケア付きねぶたの活動について先輩からお話をききました。ボランティアの4つの性格の中で、無償（無給）性が強調されがちだという話を聞きましたが、確かにその通りだと思いました。私も以前地域のボランティアに参加したことがありましたが、自発（自主）性が一番大切だと思います。そして、先輩からのお話を聞いて、ぜひ参加してみたいと思います。先輩方からは活動内容で楽しいことやつかれることもあったと聞きましたが、そういうことあってのボランティアだと思うので、とても楽しみです。
- ・ 高校のときボランティア活動は少ししていましたが、大学に入ってからはずなくなってしまいました。誰かのために何かをしたいという気持ちは大きく、この「じょっぱりねぶた」に参加したいと思いました。ボランティアは善ある気持ちを相手に渡すという行為なのではないかなと思います。相手に感謝されなくても、相手にとって良かったなと思える何かを与えられたらいいなと思います。また、相手から学ばせられることもあると思うので、楽しんでいきたいと思いました。
- ・ 今回このボランティア養成講座を受けて、改めてボランティアはこういうものなんだと知ることができました。自分の仕事や役割にしっかり責任を持って行わなければならないなと思いました。1人誰かがかけてしまうと、その仕事が進まなくなったり、迷惑をかけたりしてしまいます。私自身は、高校生の時からボランティアを行っていますが、自分の仕事にしっかり責任を持って行っていました。大学生になり、初めてのボランティアとなります。ねぶた祭りを見るのも初めてなので、頑張って自分の仕事に責任を持って行っていきたいと思います。
- ・ ボランティアに参加するにあたって自分は今まで、心のどこかで無意識に「感謝・あてにされたがり」の気持ちがあったと感じた。また、先輩方の話を聞き、「じょっぱり隊」への参加はもともと決めていたが、意識を改めて参加しようと考えた。「ボランティアをしに行く」ではなく、「一緒にねぶたを楽しむ」という心持ちで参加者の皆さん、じょっぱり隊の皆さんと一緒にねぶたを楽しみたいと思った。
- ・ ボランティアには、自分から進んで参加する自発性が必要であるということを再確認できました。また、感謝は、必ずしもされるわけではないということを理解し、目の前に助けを必要としている人がいるときに、助けてあげられる人になりたいです。先輩方の体験談を聞いて、人と関わるだけでなく、人

が見えないところで、誰かのために何かをすることもボランティアだということを理解できました。

- ボランティアというものの意義を今日は知れました。講演ではボランティアの迷惑行為やボランティア自体が様々な方向に進化していることがわかりました。講演をきく前はボランティアに対して善というイメージが正直大きかったのですが、特徴として善はなく、そのような気持ちで参加してはいけないと思いました。昨年度のケア付きねぶたの参加者の先輩方のお話もとても参考になりました。名前だけでは当日実際にしていることはわからないので今回聞いてよかったです。どの班も、大変だとききましたが、最後には良い疲労感と達成感があることがわかりました。今日の機会をうまく生かして、頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- 今回の講座を聞いて、聞く前はボランティアに何となく興味を持っているだけだったのが、実際の先輩の話でボランティアのイメージが湧き、参加してみたいという気持ちが強くなりました。また、ねぶたに参加したり見たりしたことがないのでお祭りを楽しみながら人の役に立つ仕事がしてみたいです。
- ボランティアは「無償性」というイメージが強かったのですが、4つの性格があることを知ることができてよかったです。ボランティア活動をする前にボランティア活動に対して改めて考え直すことができました。ボランティアは誰かのためになるのはもちろん、自分の成長にもつながると思うので真剣に取り組もうと思いました。誰かに言われてやるのではなく、自発性を心がけて頑張りたいです。
- 他県出身なので、ねぶた祭りに参加したことは一度もない。だからこそねぶた祭りを楽しみにしている。本学の志望理由に、じょっぱり隊も含まれているほど、楽しみだ。しかし、参加者の方々は車いす利用者であるため、周りをしっかり見なければならぬと思う。参加者を楽しませる、エンターテイメント的なボランティアに参加することは初めてなので、少し不安はある。務めたい班はまだ未定だが、どの班であっても自分から動く必要があると思う。ほめられることや感謝されることを目的とせず、主体的に参加したい。先輩方の体験談を聞いて、より参加したいという気持ちが増したので、ぜひ楽しみたい。
- ボランティアに必要なのは利他性であると考えていたが、社会性が重要であるということ学んだ。ボランティア「する」ことが「主体性」であるということなので、ちゃんとすることができるのかをよく考えて参加するかしないかを決めなければならないなと感じた。
- 先輩方のお話を聞いてみると、楽しそうな雰囲気だったので、私は裏方の仕事をやってみようかなと考えている。社会性を大事にして、これからのボランティアに参加していきたいと思う。
- 今までボランティアの定義や在り方など深く考えたことがなかったが、改めてボランティアについて考え直し、理解を深めることができた。ボランティアをしたことはあるが、心のなかで誰かが感謝してくれるのではないかと考えていたところもあったので、そのような気持ちは改めなければならないと思った。県外出身なのでケア付きねぶたのボランティアで青森のことを知るいい機会になると思う。参加者の皆さんにとって利益となるように自発的に活動していきたい。
- 今回のボランティア養成講座を聞いて、ボランティアというものは「利他性」という狭い域をこえて、社会のために役立つことだと改めて感じた。初めてのことで自発的に動くということは難しいと考える。しかし、主体的に動いて、社会の役に立ちたいと感じた。
- ボランティアをするうえで大切なことを学ぶことができました。ボランティアに参加するということは、責任を伴うことなので、しっかりと責任が発生することを自覚して取り組むことが重要だと思いました。昨年、じょっぱり隊に参加した先輩のお話を聞くことができとても参考になりました。
- ボランティアに自発性があるということは、だいたい分かっていたのですが、社会性や公共性が伴うということを理解することができました。ボランティアをしていますが「感謝」されるわけではないということを心に留めておいて、これからも参加していきたいと思います。ボランティアに参加して、利用される方に「偽善だ」と言われても、助けを必要としている人にとって「利」となるように精一杯がんばろうと思います。



## 第2回ボランティア養成講座参加後の感想(抜粋)

- とても多くの方が協力し、計画してじょっぱり隊の活動が行われていることがわかった。参加者の方々が安全に楽しめるように準備をしっかりして、体調管理をしたい。自分から積極的に仕事を探してねぶた祭りを楽しみつつ、ボランティアの成功のために活動していきたい。
- じょっぱり隊には多くの参加者、ボランティアの人が参加しているということがわかりました。ボランティアの心得である3つのポイントをしっかりとし、全員が楽しくねぶたに参加できれば良いと思いました。また、報告・連絡・相談に注意し、事故やケガに気をつけたいと思います。参加者の方全員が楽しかったと思えるじょっぱり隊をつくっていけるように頑張りたいです。
- 今回、ケア付青森ねぶたじょっぱり隊、ボランティア養成講座に参加し、印象に残ったことは、ケア付ねぶたについてのエピソードです。ケア付ねぶたに参加したことによって人生を変えた家族のエピソードを聞き、このねぶたの参加理由が「青森の文化にふれたい」だった私ですが、自分がねぶたに参加することで人に変化を与える存在になれるということに気づき、それを意識してねぶたに臨みたいと思いました。
- この講座を聞いて、ボランティアに参加することの大切さ、ボランティアに対する心得、じょっぱり隊に関することが聞けてよかったです。このじょっぱり隊に参加して、自分のボランティアに対する考えや意識が変化すればうれしいと思います。一人にならずにたくさんの方と助け合い、協力しながら、このボランティアを楽しんでいけたらいいと思っています。
- 今回の第2回ボランティア養成講座を聞き、じょっぱり隊の活動の様子を知ることができた。22年間に6000人以上の参加があり、そのようなボランティアに参加できることを改めてうれしく感じた。ケア付ねぶたに参加した親子のエピソードを聞き、ケア付ねぶたに参加することでさまざまなドラマがあり、感動的だった。私も少しでも力になれるように頑張りたい。
- じょっぱり隊の活動についてよくわからないでいたのですが、さまざまなストーリーがあることがわかりました。また他県から来ている人がたくさんいると知ったので、せっかく青森まで来てくれるので、生きがいになるようなものにしてあげたいです。自分から進んで活動していけるように頑張ります。
- ねぶたボランティアの規模の大きさと、歴史を知ることが出来た。ケア付ねぶたのエピソードを聞いて、人生を大きく動かす力とドラマがあることにとても感動した。自分も、そのボランティアに関わることができるので、喜びを感じると同時に責任を感じた。楽しむだけでなく、しっかり役割を遂行したい。
- ただのボランティアではなく、命を預かっているという自覚を持って参加しようと改めて思いました。体が不自由な人のために着やすい衣装や少し違った食物など、多くの工夫を知りました。またエピソードを見て、誰かのストーリーを一部支えられるよう、いろいろなお話をうかがいながら支えていきたいです。
- じょっぱり隊には、障害者本人だけでなく、その家族の方々も影響を与えるものであると知りました。今年のじょっぱり隊を通してただのボランティアではなく、参加者を支え、命を預かるものとして気を引き締めていきたい。また、自分自身にとっても得るものがあるよう努めていきたい。
- 前回のボランティア養成講座では「ボランティアとは」という内容でしたが、今回はこれから参加するケア付ねぶたについて詳しく知ることが出来ました。じょっぱり隊だからできること、じょっぱり隊でしか出来ないこと、参加者さんのさまざまな思いとたくさんのが、ケア付ねぶたには詰まっていると思いました。有意義な活動になるよう、そして何よりも参加者さんに楽しんでもらえるように尽力したいです。
- 今回のボランティア講座では、じょっぱり隊のそれぞれの仕事内容や合言葉などについて学べた。スライドショーではケア付ねぶたじょっぱり隊にはドラマがあるのだということも実感でき、自分

も参加する上でたくさんの人に出会おうと思うが、そのようなことを意識して頑張ろうと思った。この講座を生かしてはじめての参加が良いものとなるようにしたい。

- じょっぱり隊の中には本当にドラマがあるんだということがわかった。私たちがじょっぱり隊としてボランティアする中や瞬間には、参加者さんの表面しかわからないかもしれないけど、今回のドラマで見たような参加者さんの中の思いや考えがきちんとあることを心において参加者さんと関わりたい。
- ケア付ねぶたで実際にあったエピソードや、じょっぱり隊の話を聞いて、改めて楽しむことも忘れずに、でも真剣に活動に参加しようと気が引き締まりました。大変そうではあるけど、コミュニケーションをとる良い機会になるし、このような体験はめったに出来ないと思うので、頑張りたいです。
- ケア付ねぶたが開催されることで障害を持った方々に生きる楽しみを与えられるんだと感じた。じょっぱり隊として参加することが楽しみではあるが、来てくれた方々を笑顔で迎え、トラブルが起こったとしてもめげずにやり遂げたいと思う。
- この大学に興味を持った理由である「ケア付ねぶた」についてよく知ることが出来た。ただ楽しいだけではなくて運行するには多くの活動があるんだなと思った。ケア付ねぶたに参加する人たち、その家族を元気にし、最高の思い出が作れるようにサポートしたい思いが強くなった。
- これからケア付青森ねぶたじょっぱり隊に参加するにあたって自分が楽しむのではなく、参加者さんのケアやご家族への心遣いも大切だと感じた。今日、学んだことを活かして当日、参加者さんの記憶に残るようなケア付ねぶたにしたい。
- ケア付ねぶたの各ボランティアの内容を聞き、そして自分の役割を知ることによってボランティアに対する意識が高まった。また自発的に動くようにし、参加者の皆さんと一緒に盛り上げたい。人それぞれ、さまざまな思いをもってねぶたに参加していることも理解して臨んでいきたい。
- 青森の名物であるねぶた祭りに、ご老人や障害を持った人でも楽しめるようにじょっぱり隊の存在は必要なんだと思いました。また参加者のドラマにボランティアが関われることは数少ないので、とてもやりがいのあることだと感じました。じょっぱり隊の一員として楽しみながら最善を尽くしたいと思います。
- 実際に、このケア付ねぶたに参加した家族の話を聞き、このねぶたが誰かの人生を変えることもあるということ強く感じました。ボランティアとして参加する上で「出来ない、やったことがない」ではなく、だからこそ「やってみよう」と思うことを大切だと理解できました。障害をもつ人々が楽しい時間を過ごせるとともに、自分自身も充実した時間が過ごせるようにしたいです。
- 私は青森県出身で毎年ねぶた祭りに参加していますが、裏で家族のきずなのような感動の出来事があったことに驚いた。参加者にねぶたを楽しんでもらうだけでなく、家族に障がい者と向き合わせる機会も与えるという大きなボランティアだということを胸に務めようと思う。
- 今回のケア付青森ねぶたじょっぱり隊に参加するのをずっと楽しみにしていた。参加者の中には県外から来ている方もたくさんいると聞いて、私も初めてなので一緒に楽しみたいと思う。また今回は運行班として活動するにあたり、参加者が楽しむのはもちろん、自分自身も楽しみながら活動したい。大きな声で全体を盛り上げられるよう頑張りたい。
- じょっぱり隊の講座を聞いて、まだまだ不安があるが、みんなと楽しんで臨みたいと思った。合言葉などを早く行ってまわりたい。残念シーンは高校のボランティアの際に思い当たる節があるので、気をつけたい。後半、ご家族の話では前半のような楽しい面だけでなく、その裏側のエピソードを知ることが出来、自分もそのような参加者のため



にできることあ全力でやっていきたい。

- 障害を持っている人やその家族の方々にとって、交流の場、そして成長の場にもなり得るのだということを知ることが出来た。じょっぱり隊に参加する以上、そうした家族の支えになれるような活動を目指してがんばっていききたいと思う。
- 今回の講演を聴いて、じょっぱり隊の活動のことについて知ることができた。それぞれの班にわかれていて、班の役割や休みの間の過ごし方を学んだ。ねぶたの参加者にはさまざまなエピソードがあるため、当日はコミュニケーションを通して参加したきっかけなどを聞きたいと思った。ケア付ねぶたのボランティアを通して、さまざまな経験をしていろいろなことを学んで期待と思った。
- じょっぱり隊に参加する参加者さんは、本当にさまざまな思いを持って参加を決意していることがわかりました。そのことから、じょっぱり隊の活動の間、積極的に参加者さんに声をかけ、どのような思いで参加されているのかなどについてお話し、色々なことを成長の糧として吸収したいと思います。また私は体調を崩しやすいので、本番に向けて体調管理に留意し、ボランティアに全力で取り組めるように努めたいと思います。
- 私がじょっぱり隊に参加するのは、今回がはじめてなので、期待や頑張ろうという気持ちの半面、さまざまな不安もありました。しかし今日の講座を聞いて、ケア付ねぶたはみんなでねぶたに参加して楽しむということだけではなく、たくさんの人との交流があり、いろんなドラマがあるというステキなボランティアだと感じました。初めてのケア付ねぶたを自分自身の成長につなげたいと思います。
- 参加者の方を支援し、楽しんでいただくために行くのダシてだらしない姿をさらさないよう、気を引き締めなければならないと思った。自分にできることは少ないかもしれないが、チャレンジする気持ちを常に持ちたい。楽しくなさそうに仕事をしている姿を見てもきっと参加者や保護者の方々はいい気持ちにはならないだろうから、笑顔を忘れずに仕事したい。
- 講座の中で印象に残ったことは、じょっぱり隊の職員の方が話してくれたエピソードである。自分も参加者の方と積極的にコミュニケーションをとり、人間ドラマを体験したい。それが自分の人生に刺激を与えてくれると考える。
- ねぶた祭りという全国でも有名な祭りをとおして、障害のある方、高齢の方と触れ合うことで、新たな視点を持つことができるのではないかとケア付ねぶたが楽しみになりました。
- ねぶたに対してさまざまな熱い思いを持ってきている人がいることを改めて実感した。普段の生活では接することのできない人と「じょっぱりねぶた」をとおして接することが楽しみになった。自分の役割をしっかりと果たし、今後にいかせるように頑張りたい。
- じょっぱり隊に参加することで、その後の人生に影響がある人もいるのだなと感動しました。私もじょっぱり隊を通して何か、かけがえのない大切なことを得たいと思います。
- ケア付ねぶたは障害のある人と一緒にねぶたに参加するという認識しかありませんでした。でも、じょっぱり隊に参加する人には色々な事情があって、決心して参加していることを知りました。そんな方々をサポートできるよう頑張りたいと思いました。
- 今年でじょっぱり隊に参加するのは2回目なのですが、今回、改めてじょっぱり隊の歴史を知ることができて、より参加への意識が高くなりました。自分がどういう思いで参加するのか、参加者さんがどのような思いで参加してくださるのか、考えながら参加したいです。今年も全国各地から参加者さんが来てくださるので私も楽しみです。
- この講座では、ボランティアの心得を改めて学ぶことができた。昨年も参加したが改めて具体的な行動を確認できたのでよかった。清風荘のスタッフの方を久しぶりに見て、今年のじょっぱり隊もとても楽しみになりました。気合が入りました。
- 去年参加させていただいて、たくさんの人とのつながりの中でパワーをいただいたので、今年も素晴らしい経験になればと思い、参加しました。経験を通して昨年より成長した姿で参加者さんに会えるようにじょっぱり隊の心得を心に留めて参加したいと思います。とても楽しみです。

## 活動を振り返る会参加後の感想(抜粋)

班	感想
<b>運行班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 障害者の方々と一緒に参加したことで、障害者に対する印象が変わったことです。障害を持っている人は特別な人達ではなく、普通の人なんだなということを感じました。得意なもの、苦手なものがあるように、障害を持つ人達は苦手なことが少し人より多いだけなのだと思います。また、一緒に付き添っていた家族の方の愛情がとても大きいと感じました。「この人が世界で一番可愛く見える」とおっしゃったときには、とても素敵だと思いましたし、こんな家族になりたいとうらやましく感じました。</li> <li>• 参加者さんがケア付きねぶたにかえる思いをたくさん聞くことができ、私も頑張ろうという気持ちになった。私の方が逆に参加者さんから元気やパワーをもらった。ボランティア活動に初めて参加したが、ボランティアは素晴らしいと思った。自分が行ったことが誰かの役に立つことが嬉しかった。今年はプライマリー・ケア担当だったが、次はハネットとして参加してみたいと思った。</li> <li>• 初めての青森ねぶたであり、初めてのケア付きねぶたであったので、不慣れな部分もありましたが、参加者さんやそのご家族の方にも教わりながら協力して、ねぶたを楽しんでもらえたかなと思います。観察力・判断力がケア付きねぶたには必要だなと思いました。参加者の方の表情を見て、ご家族の方がどう行動しているかを見た上で、自分のできることを判断して行動するのは簡単そうで難しいと感じました。授業では習っていないチューブでの食事援助を見れて、とても良い経験になりました。学内では学べないリアルな援助を間近で見られたので良かったです。</li> <li>• 障害者の方とどのように話せばいいか、どのように触れ合えばいいかを学ぶことができました。教科書だけの知識だけでなく、実際に触れ合うことができたため、より多くのことを学べた。ねぶたは見るのもやるのも初めてだったので、とても興奮した。</li> <li>• お昼に参加者の方や付添いの方のお話を聞いて、「年に1回の楽しみ」という声がたくさんあって、よりよいものにしてあげたいという気持ちが一層強くなった。話せないからといってコミュニケーションを取らないのではなく、指や手に書いてもらおうとか、色んな手段はあることを学んだ。分からなくても、何回も書いてもらってコミュニケーションがとれると、参加者の方もうれしそうにしてくれた。</li> <li>• ケア付きねぶたが参加者にとって、どれだけ元気づけられるイベントなのかを知りました。沿道の方から拍手や応援をいただけ、すごく嬉しかった。参加者さんとその家族、それに担当していない参加者さんとも仲良くなれて良かった。言葉が話せない人とても気持ちを共有できた気がする。</li> <li>• 今まで車イスに乗る方を援助する経験がなかったため、はじめは戸惑うことも多かったが、一緒にいるうちに、参加者さんの表情に変化がみられるのを感じることができた。家族で毎年ねぶたを楽しみにしているということだったので、これからも毎年参加して頂きたいと思った。</li> <li>• 参加者さんとコミュニケーションが取れたこと、車イスを押して一緒に歩いたことで参加者さんとの距離が近くなったと思いました。また、一緒に行動する中で、コミュニケーションの取り方を学ぶことができました。</li> <li>• じょっぱり隊でのねぶたに参加することが、障害を持った人、その家族にとって大きなエネルギーになっていることが本当によく分かった。20回以上参加している人もいて、人と触れ合うのが嬉しくてずっと参加しているという話を聞いて、どのような障害があっても、人との関わりは良い刺激になるということが分かった。あまり笑わない人でも、歌を聴いたり、みんなでかけ声を出したりする場面では、とても元気でニコニコしていて、このような誰でも楽しめるイベントをもっと増やしていくことで、元気になれる人が増えると感じた。ボランティアとして支える側で参加したが、たくましく生きている高齢者や障害者のみなさんを見て元気をもらったし、積極的に行動をすることの大切さを学んだ。</li> <li>• じょっぱり隊の仲間が長時間の活動で疲れている時に、声をかけることができた。去年は自分のことで精一杯だったけど、今年は周囲に気を配りながら活動できた。また、医療班やケア班の方々がどのように参加者さんやそのご家族の方々と接しているのかも見ることができた。</li> </ul>

班	感想
<b>備品班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてこのボランティアに参加して、何がなんだか分からず、とまどう場面もあったが、最終的にはケア付きねぶたに参加した方々の退陣後の笑顔を見て、自分の縁の下の力持ちの一人として役立てたことに良かったと思った。</li> <li>運行から帰ってきた参加者さんが笑顔で嬉しかった。荷物の行き先や荷札など、先々まで考えるのが大事だと感じた。</li> <li>このような大規模なボランティアに初めて参加して、ボランティア活動にはたくさんの人達が関わっているからこそ成功すると実感することができた。じょっぱり隊が22年間も続いているのは、それぞれの活動で連携をとり、今年に見直した方が良かったところを来年に活かし、直しているからだと思った。</li> <li>思っていたよりも疲れました。参加者さんや付添いの方の着替えをきちんと渡せるか不安でしたが、同じグループの人たちと協力してスムーズに取り組めて良かったです。参加者さんにとって良い思い出になるように、裏方が笑顔で対応することが大事だと感じた。</li> </ul>
<b>食料班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改めて協力することの大切さを学んだ参加者と直接関わる機会はなかったが、陰ながらボランティア・参加者の皆が楽しんで活動するサポートはできたかと思う。立ちっぱなしの長時間労働で疲れたと思うことも多かったが、「美味しい」と色んな人に行ってもらえて嬉しかった。</li> <li>初めてケア付きねぶたにボランティアとして参加した。私は運行班の障害者に付き添ってハネトとしてねぶたに参加するイメージが強かった。でも、運行班だけではなく、じょっぱり隊の方をはじめ、設営班、備品班、医療班、食料班など、その他大勢の方の協力があって、ケア付きねぶたが実行できるんだと実感した。</li> <li>活動している間は、作業に追われた時もあったけど、ねぶたを觀賞することができたり、班の中で楽しみながらできたので、充実した1日だった。飲み物の量やごはんの量を聞く場面もあったので、コミュニケーションが必要だと思った。</li> <li>参加者さんのケアをしたり、話をしたりする機会はなかったけれど、食事を配っているときに皆さんが笑顔で接してくれ、笑顔の大切さを学んだ。</li> </ul>
<b>設営班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者さんと直接関わることは少なかったが、裏方としてケア付きねぶたをバックアップしているという実感が確かに持てたので、本当に充実した時間を過ごせた。</li> <li>きちんとしたボランティアに参加したのは今回が初めてだったが、裏方として、ねぶたに関わられてよかった。直接、障害者の方と接する機会はなかったが、帰ってきたじょっぱり隊のメンバーの顔を見て、本当に素晴らしい活動に参加させてもらうことができたと感じた。</li> <li>陰で支える仕事は大変だけれど、だからこそ運行班が元気よく跳ねて帰ってくる姿を見て、とても達成感があり、感動した。スムーズに準備、後片付けをするためには、視野を広くして自分から動くことが大切だと感じた。じょっぱり隊には本当に多くの人に関わっており、連携して達成することの大切さを感じた。</li> <li>自ら仕事を見つけて動くことの大切さを学んだ。ねぶたを跳ねる人以外にも裏方で多くの人が働いているからこそ、ねぶた祭りが成り立っているのだと感じた。</li> </ul>



## 活動を振り返る会参加後の良かった点、反省点・要望(抜粋)

	良かった点	反省点・要望
<b>運行班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者と触れ合う時間が十分にあった。</li> <li>・ 係でない仕事も手伝うことができた。</li> <li>・ 今何をすべきか、自分なりに考えながら行動できた。</li> <li>・ 当日の気温に配慮しながら対応できた。</li> <li>・ 大学のPRになった。</li> <li>・ ねぶたの楽しさを共有できた。</li> <li>・ 花笠・食料・浴衣の受け渡しがスムーズだった。</li> <li>・ 付添いの方にもしっかりと食事や飲み物を渡すことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リヤカー数、もしくはリヤカーの配属人数を増やしてほしい。</li> <li>・ 給水のタイミングが分からなかった。</li> <li>・ 前列と後列の間に距離ができてしまい、声掛けがまとまっていなかった。</li> <li>・ 待ち時間が長く、時間を有効に使えない。</li> <li>・ 跳ねる時の表情が暗いように感じた。</li> <li>・ じょっぱり隊ならではのダンスはやはりあった方が良い。</li> <li>・ 指示待ちの面があり、自分から仕事を見つけることができなかった。</li> <li>・ 会話が弾むようなコミュニケーションがとれなかった。</li> </ul>
<b>備品班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分でできる仕事を探して取り組むことができた。</li> <li>・ メリハリをつけた活動ができた。</li> <li>・ 部屋割が決められていたので、自分の分担が分かりやすかった。</li> <li>・ 待機時間に一般ボランティアの方々から学んだり、初めて知る話を聞くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の方と積極的に話すことができなかった。</li> <li>・ 指示待ちの時間が長かった。</li> <li>・ 待機時間に、参加者と話をする機会がほしい。</li> <li>・ 連絡手段として携帯電話があることを忘れてしまい、時間を余計にかけてしまった。</li> </ul>
<b>食料班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分担がうまくいっていた。</li> <li>・ ゴミの分別をしてもらえるように工夫ができた。</li> <li>・ 嚥下食を実際に試食や実食する経験ができた。</li> <li>・ 指示を受けて行動するだけでなく、自分たちで考えながら行動できたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事を手渡す時に声かけや会話がもっとあってもよいと思った。</li> <li>・ 箸・スプーンがきれいした時などの対処が遅かった。</li> <li>・ 食事を作る際や配膳する際、無駄な消費があった。</li> <li>・ 青い森公園で飲み物やおにぎりを置いていたとき、一般の方が露店との見分けがつかずに来てしまった。</li> </ul>
<b>設営班</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 荷物を運び出す作業など、周りとの協力して行動することができた。</li> <li>・ 意欲的に仕事に取り組んだので、すべての仕事が滞りなく進めることができた。</li> <li>・ 他の班の荷物も、設営班で率先して運べた。</li> <li>・ 特に大きな事故やケガがなく、成功させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接的に参加者と関わる機会が少なかった。</li> <li>・ 空いている時間が多く、もう少し時間を有効に使いたかった。</li> <li>・ 席を離れている時に、同じ班員の人が行ってしまったということがあったので、班員同士きちんとコミュニケーションを取っておくべきだと感じた。</li> <li>・ 屋外では立ち仕事が多いので、裏方用に休憩用のブルーシートなどを用意して座れると良い。</li> </ul>

## 全体スケジュール

## 平成29年度ケア付き青森ねぶたしよっぱり隊

### 直前説明会

日時：8月2日（水）10：30～12：00  
場所：A棟3階 A305教室、フジカレッジサミナーセッションルーム（A305 教室隣り）  
内容：Tシャツ・シール配布

#### 班の紹介

#### 活動の最終確認

（運行班はフジカレッジルームで着付練習、陣列練習）

- ・学生ボランティアは全員参加してください。
- ・事前にこのしおりをよく読み、質問などはこの説明会のときにしてください。
- ・フライマウンターアの担当者を発表します。参加者の情報を伝えますので、各自、筆記用具、メモ用紙を持参してください。

### ねぶた出陣

8月3日（木） …… 2 ページへ

### 活動成果振り返る会

日時：8月4日（金）11：00～12：00 …… 13 ページへ  
場所：A棟1階 A112教室

## 青森県立保健大学

## 学生ボランティアのしおり

### 目次

全体スケジュール	1 ページ
ねぶた出陣（8月3日）のスケジュールと内容	2 ページ
ボランティア留置事項	5 ページ
ボランティアの心得【共通】	6 ページ
ボランティアの心得【備品班】	7 ページ
ボランティアの心得【運行班】	8 ページ
ボランティアの心得【設営班】	10 ページ
ボランティアの心得【食料班】	11 ページ
緊急時等の連絡先	12 ページ
活動を振り返る会の案内	13 ページ

## ねぶた出陣のスケジュールと内容

日時：8月3日（木）

### 1. 集合時間

- ・大型バス、マイクロバス、モーリー・ロンドン GO、つゆき号で移動します。次の時間どおりに集合してください。

集合場所：管理棟正面

バス出発時刻：8：30

- ※ 各自の集合時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照（直前説明会で配布）
- ・大型バス、マイクロバス、モーリー・ロンドン GO、つゆき号を使用しない場合は、7月28日（金）までに各級の担当教員または、C棟1階の地域連携推進課（017-765-4085）に連絡してください。

- ・当日にむけて急ぎ地使用しないことになった場合は、出発の時刻前までに「緊急時等の連絡先」（12ページ）へ連絡してください。

- ・定刻で出発しますので、遅れることはないようにしてください。

### 2. 福祉プラザに到着した5

- ・1階ロビーで待機してください。別業務の方や来訪者がいますので、私語は控えるようにしてください。

- ・担当教員が出欠確認をします。

担当教員	食料班	大野先生
	設営班	漆畑先生、マイケル・スミス先生
	備品班	児玉先生
	運行班（全体）	谷川先生、石田（徹）先生、阿田先生、小笠原先生

・全員そろったら、担当教員と一緒に各級の集合場所へ向かいます。

### 3. 各級での活動

- ・各自、各級心得、タイムスケジュールを確認して動いてください。ただし、タイムスケジュールはあくまでも目安です。実際の行動は、各級のリーダーに従ってください。
- ・各級への伝達事項は、県民福祉プラザ4階大ホール前の受付に設置するホワイトボードを随時確認してください。
- ・学生ボランティアは、確認したいこと、指示を仰ぎたいことがあれば、担当教員に伝えてください。

班名	班リーダー
食料班	久慈 武司
設営班	山口 真弥
備品班	山口 直美
運行班	櫻田 優

### 4. 決起大会等

- ・次の時間帯は全員参加です。ただし、各級のリーダーから指示があった場合はそれに従ってください。

9：30 ボランティア決起大会（4F県民ホール）

10：45 祈願祭（同）

11：00 結団式（同）

### 5. 休憩（食事）

- ・食事や休憩時間は、タイムスケジュールを参照して各自とってください。ただし、食事や休憩に入るときは、必ずリーダーに確認をとってください。

- ・お昼は、4階大中研修室で食事が提供されます。各自受け取って、各級のリーダーの指示に従い、交流会会場（4階大中研修室）以外の場所ですべてください。ボランティア担当者は、交流会場で参加者と一緒に昼食をとりまわります。参加者さんと同じものを食べます。料理を取り分けるなど、参加者への配慮を忘れなさい。

### 6. 青い森公園へ移動

- ・県民福祉プラザから青い森公園に移動する際は、準備のできた人から順次乗車します。各級リーダー、車両班の指示に従って、スムーズに乗車してください。
- ・県民福祉プラザへは戻らないので、自分の荷物をすべて持って移動してください。絶対に忘れ物が無いようにしてください。

### 7. 解散

- ・各級がリーダーの指示により解散したら、各級の担当教員のもとに集合してください。各級が解散しても、勝手に帰らないでください。担当教員が人数確認をします。
- ・モーリー・ロンドン GO、つゆき号、マイクロバス、大型バスで大学に戻ります。青い森公園から自分で帰りたい人は、このとき各級の担当教員に申し出てください。
- ・バスは青い森公園東側（日本赤十字社青森県支部付近）に停車しています。各級の担当教員の確認を受けた人から順に乗車してください。

バス出発時刻 22：00、22：10

※ 各自の乗車時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照（直前説明会で配布）

- ・大学に到着したら、担当教員の指示により解散となります。

## ボランティア留意事項

### ☆ 初対面の合言葉

声高らかに、お願いします。  
「ようこそ（青森へ）、ようこそ（じょうぱり隊へ）」おもてなしの心をこめて

### ☆ 協働の合言葉

上手くできたから、「じょうぱりだからね」、失敗した時にこそ、「じょうぱりだものね」、と声に出してみてください。

### ◆準備を重ねてきましたが、予定変更や、ハプニングは、このようなイベントにつきものです。

また情報が伝わらず、思うような活動が出来ない立ち止まっている方もいるかもしれません。真剣であればあるほど、『怒り心頭に発する』場面もあるでしょう。でも、せっかくの出会いを大切に、例え怒りであってもそのエネルギーは、活動のために向けて欲しいもの。そこで何かトラブル起きたときの合言葉、『じょうぱりだからね隊ご紹介します。声に出して言いながら、ストレスも大丈夫です』と流して、前進してください。有終完美（終わりはければすべてよし）を目指し、不具合があつたにしても、「じょうぱりだからね隊、お願いします。

最高のおもてなし、それは、  
ボランティアの寛和、  
皆さんの笑顔、なのです

### ハネットの皆様へ

運行時は常に＜参加者＞＜付添＞＜ハネット＞3人1組で行動します。ハネットの役割は次の通りです。	
1	参加者、付添者（家族）の中には、車外の方もいます。場所や言葉等に不審を感じている時は、丁寧に説明し、誘導しましょう。
2	付添の方のトイトイレや着替え等で、参加者から離れる時、しっかりと交番しがポートしましょう。
3	ねぶたの衣装を身につけ、元気に跳ねて、運行を盛り上げましょう。
4	参加者の皆様は、ねぶたに参加することを楽しみにしています。青森の魅力を沢山紹介し、青森を満喫していただきますように。

- ボランティア自身の健康管理が大切です。自己管理ですが、早め早めに、対処して欲しいものです。
  - 体調不良時は早めに自分で担当教員に申し出る
  - 無理をせずボランティアを断る勇気も重要です
- ケア付じわの際には、多くの関係者の期待を背負いながら活動しています。多くの交番者の期待と、そして信用を損ねない活動姿勢が重要です。夜遅くの活動でもあり、察りという非日常の雰囲気について飲み込まれてしまいがちですが、しっかりと気持ちを引締め、お断りいたします。
  - 注意が必要な行動を自分で考えてみよう
- 総勢 250 人で、この事業を行います。時間の制約もあり、班ごとの活動はしますが、総合力が問われます。気持ちよく仕上げるコツは、『互いに相談、きちんと連絡、しっかりと報告』です。さらに、ボランティアの真髄は、主体性、自主性です。だから、『～の仕事が終わりました。次は何ですか』と声をかけてください。これは基本のキです。心がけないと、できない事でもあつます。ケアの基本は、相手の方をよく見ること、コミュニケーションのポイントは笑顔、皆さんの一人一人の手と心がけで、この活動をより良くしてください。

相談事について

いつでも、どのようなことでも、疑問、不安に感じたら、担当ボランティアのリーダーや教員に聞いてください。ボランティア活動中の体調不良は、我慢せずに班の担当教員に申し出てください。  
※ 大学/バス出発前に、体調不良等で参加できなくなつた場合は、速やかに緊急時等の連絡先に連絡してください。

### <服装・持ち物>

- 服装
  - ・上は、大学Tシャツを着用してください（現地で着替えない）。下はズボンを着用してください。
  - ・ソックス、スニーカーを履いてくる。
  - ・雨天の場合は、雨ガッパなどを各自で用意する。
- 持ち物
  - ・貴重品の管理は各自で行ってください。大金を持ってこない。運行中は浴衣に着替えるので、ポーチなどを持参して各自で貴重品管理をしてください。

### <その他>

- 体調管理
  - ・体調管理は自己責任と努めます。当日は万全の態勢でボランティアに臨めるよう、体調を整えておきましょう。
  - ・ボランティア前日は睡眠を十分にとり、朝食を食べてきてください。
  - ・当日、体調が悪くなつたら、早めに担当教員に申し出てください。
- 緊急連絡
  - ・体調不良以外にも、困つたことや、わからないことがあれば、班のリーダーや担当教員に確認、報告等してください。
- ねぶた終了後、参加者とその家族への対応
  - ・場合によって、参加者や家族の方からお手紙が届く場合があります。その際にはきちんとお返事を出すようにしましょう。

## 備品班 心得！

### 集合場所 4階小研修室

備品班は、ボランティアの方との協力を心がけて、スムーズに荷物の整えや着付けができるように声をかけあってください。	
その1	荷物は最小限度にして下さい。持ちながらの作業はできません。
その2	集合場所ではリーダーが受付し、備品班当日の動きを確認します。
その3	それぞれに役割がありますので、体調不良時は、無理をせずに早めに教員への報告をお願いします。
その4	行動するときには、どこに行くのか、伝達し、勝手な行動は控えてください。所在が確認できないときは、あなたを探すこととなります。
その5	わからないときは、自分の判断で行動や回答をせずに、すぐにリーダーへ連絡してください。リーダーに連絡がつかない時は、教員に相談してください。
その6	1.3時からの着付けの際、着物の不備や質問等わからない時は、その場を離れず、後回しにせず、すぐにリーダーに連絡してください。
その7	「荷物がなくなつた」等の声が聞かれた時は、一人で行動せずに、そのことを言いに来た方の名前を聞き、その場でリーダーに連絡ください。リーダーがその場に行つて対応します。

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 出席前後の浴衣と私服の受け渡しでは混み合つて騒然となることもありませんが、落ち着いて相手の名前を確認して確実に受け渡しましょう。
- ◆ ねぶた終了後、運行班のみさんが浴衣をランドリーバッグに入れますが、携帯電話や貴重品等の所持品を入れないよう呼びかけるとともに確認しましょう。
- ◆ 他ボランティアから荷物の移動を指示されることもありませんが、不明な場合は場所を確認してから指示を受けましょう。

## 保健大ボランティア 共通心得！

その1	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 合言葉 トラブルがあっても … 「じょぼりだものね」 良いことがあれば … 「じょぼりだからね」
その2	8月3日の集合場所となっている県民福祉プラザには、シャトルバス、若しくは公共機関を利用し、自家用車、自転車は避けてください。駐車（輪）のお世話は出来ません（解散場所は県民福祉プラザではなく、青い森公園です。）
その3	一人で解決しようと思わず、迷ったらじょぼりの際の T シャツを着ているボランティアスタッフや教員に相談しましょう。変更事項が常にあります。何時の時点の指示が確認しましょう。
その4	運行班になっている方は、ソックス・スニーカーをはいてきてください（本来なら草履ですが、安全と動きやすさを考慮して）
その5	携帯電話が雨に濡れて働かないように、ジップロックなどの入れ物に入れるなど工夫しましょう。
その6	貴重品の管理は各自で！ 大金を持ってこない。食事や飲み物は会場が出ます。
その7	所持品の保管は自己責任です。大事なものは持ってこない。また所持品は記名をすること（着替えがあるので、身に纏げるものは、ウエストポーチなどを活用のこと）
その8	体調不良の際は、教員に申し出てください。
その9	ボランティア活動時は、ボランティアであることを心がけましょう。活動時の携帯電話の使用は控えてください。

\* 昼食は、4階大中研修室で提供された食事を持参し、各班のリーダーの指示に従って、交流会会場（4階大中研修室）以外の場所です。ボランティア担当者は、交流会場で参加者さんと一緒に昼食をとります。

ケア付き両膝ねだて “じょいぶ隊”

## 運行班 心得！

集合場所 4 階県民ホール

わからぬことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。	
その1	怪我等には十分注意を。もし怪我・体調不良・事故等の場合には教員へ連絡をお願いします。
その2	所持品等については自己管理をお願いします。
その3	県民福祉プラザに直接来る場合は、公共交通機関を利用し、自家用車、自転車は避けてください。
その4	8月3日は解散時刻を22時に予定しています。(大学到着は22時30分頃)
その5	天候等の状況によってスケジュール等が変更になる場合があります。その際には随時連絡します。

\*退陣後、速やかに着替えをし、バス発車時刻までにバス待機場所に集合してください。

(着替え場所) ハネト・付添学生(女子) … 青い森公園内のテント

ハネト以外 … 県庁北棟 2 階会議室 A、B

※退陣時 2 1 : 3 0 以降になった場合は、全員テント。

\*衣装については伝説的な着付けを行います。着付け時の指示に従って着用してください。(お腰の丈が長いことは了解してください)

## ★本学生ボランティアへの伝達事項★

### ハネトグループ

- ◆着替えは 1 3 時頃を予定しています。その前に昼食を終えるようにしよう。
- ◆服装は、履き慣れた運動靴とタンクトップの着用 (着替えが楽にでき、汗を吸い取ってくれます) をお勧めします。
- ◆運行班だけが浴衣に着替えます。脱いだ洋服、貴重品以外の荷物は備品班に預けることとなります。大きい荷物などを持ち込まないようしてください。
- ◆着替えは、教員の指導を受けながら各自で行います (着替え場所：女子 4 階県民ホールテント、男子 4 階多目的室 4A)。着付け終了後、着付け班ボランティアに最終確認していただきます。
- ◆ 1 3 : 3 0 までには着替えを終了するよう、きばると動きましょ。
- ◆浴衣に着替えたら、モーリーのラミネートシートを左側に貼ってください。
- ◆着替え終了後、県民ホールステージで前列の練習を行います。

※ プライマリーケアを担当する学生は、参加者を一人にしないようタイミングを見て着替えに行ってください。近くのボランティアに必ず声掛けしてから離れましょ。

- ◆花笠は、青い森公園に移動したら備品班から受け取ります。
  - ◆元気づけ笑顔でがんばらましょ。また、前列は「常に美しく心を掛けましょ。
  - ◆運行中は緊急の場合を除き前列を離れることができません。体調を整えて置ましょ。また水分をこまめにとりましょ。
  - ◆運行中やその前後も参加者の方を一人にしないよう十分注意しましょ。持ち場を離れる時は付添さん等に一声かけてください。
  - ◆退陣後は、すぐに着替えに入るのではなく、参加者が一人にならぬことを参加者と付添に確認してから着替え場所へ移動しましょ。そのまま入浴場所へ移動する参加者もいるので、お別れの挨拶のタイミングを迷わないように動きましょ。
  - ◆退陣後、花笠を青い森公園の回収場所に各自戻してください。
  - ◆青い森公園内に設置したテントで、自分の荷物を受け取って着替えをしてください (状況に応じ変更になる場合があります。指示のもと設備応変に行動してください)。
- ※ プライマリーケアを担当する学生の着替えが優先です。先に参加者が退陣してくるので、ハネト学生は急いで着替えで青い森公園に戻り、担当の参加者についてください。
- ◆脱いだ衣装は、テント脇に待機している備品班に返却しますが、その際私物が混入していないか確認してください。

### のぼりグループ

- ◆着替えの時間や場所はハネトグループと同様ですが、衣装は、はつぴとなりましょ。
- ◆運行中、緊急事態やトイレ移動時は、のぼりを持って前列から抜けます。
- ◆車向班の目印と効ります。
- ◆のぼりはお腰につけて固定し、4 5 度の角度で持ちましょ。常に横を意識し、そろえて進むよう心がけてましょ。
- ◆運行中は、前列の混れを修正しましょ。また、カラスハネト等の侵入を防ぎましょ。
- ◆県庁北棟 2 階会議室 A、B で、自分の荷物を受け取って着替えをしてください。退陣時間が 2 1 : 3 0 を過ぎた場合は、青い森公園内に設置したテントで着替えます。

## 食料班 心得！

### 集合場所 5 階調理実習室

その1	必ず手洗いをし、作業に取り掛かりましょう。 むやみに髪など触らず、手指を清潔に保ちましょう。 また、怪我には留意しましょう。
その2	調理道具は使ったら、片付ける。作業台の上は、整理整頓をしながら調理しましょう。 布巾を常備し、汚れは小さいうちに掃除しましょう。
その3	貴重品、所持品の管理は自己責任です。 大事なものは持ってこない。また、所持品には記名をする。(身につけるものは、ウエストポーチなどを活用のこと)
その4	県民福祉プラザに直接来る場合は、公共交通機関を利用し、自家用車、自転車は避けてください。
その5	食中毒感染予防のため、体調不良の際は、必ず教員に申し出てください。
その6	食材や道具を台車に積みすぎない。荷前れの恐れがあるので無理に運ばない！！ 何かあったら一人で解決しようと思わず、ボランティアスタッフや教員に相談すること。
その7	食事時には、おもてなしの心で、参加者・ボランティアさんに積極的に声をかけましょう。
その8	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 合言葉 トラブルがあっても「じよっぼのものね」 良いことがあれば、「じよっぼだからね」

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 食事を提供する際には衛生的であることに気を付けなければなりません。
- ◆ 衛生的な調理や盛り付けのために、以下のこと気を付けましょう。
  - ① 爪は短く切り、マニキュアはしてこない。
  - ② 指輪やブレスレットなどの手指へのアクセサリーはつけてこない。
  - ③ 三角巾、エプロンを持参する。

## 設営班 心得！

### 集合場所： 4 階大研修室

	わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。
その1	怪我等には十分注意を。もし、怪我・体調不良・事故等の場合には、教員へ連絡をお願いいたします。
その2	所持品等については自己管理をお願い致します。
その3	県民福祉プラザに直接来る場合は、公共交通機関を利用し、自家用車、自転車は避けてください。
その4	8月3日は解散時刻を22時頃に予定しています。(大学到着は22時30分頃)
その5	天候等の状況によってスケジュールの変更があるので、変更があった場合には随時、連絡を行いますので宜しくお願いたします。
その6	8月3日 交流会から着替えセッティングでの注意事項 大研修室の仕切りは管理室職員が行います。

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 物品の移動・運搬やテント設営などの力仕事が多いため、体調を整えて臨んでください。
- ◆ 服装は動きやすいもので構いませんが、膝をつく姿勢をとることも多いため、膝を保護できる服装が望ましいです。また、軍手を準備しておく便利です。

## 緊急時等の連絡先

ケア付きねぶたでの緊急時以外は使用しないでください。当日のみ連絡可能です。

8月3日（木）7：00～22：30 以外は通話できません。

ボランティア活動中の体調不良等は、原則として各班の担当教員に申し出てください。

事務局（佐藤）
---------

## ケア付きねぶた“じょっぱり隊”の活動を振り返る会

この会は、ケア付きねぶたが終わった後に、ボランティアの学生の皆さんが、それぞれどのような活動をして、それがどのような形で参加された方に提供されていたか、そして、参加者の方に「どう喜んでいただいた」のかを振り返る会です。

皆さんの体験や感動したことを学生全員で共有することで、新たな感動と、ボランティアについての考え方に広がりが出てくると 생각합니다。 また、皆さんの声を“じょっぱり隊”の企画・運営をされている方に伝えることで、次に参加する方やご家族の方、ボランティアの方の活動に貢献できると 생각합니다。

振り返る会は、ケア付きねぶたの翌日に開催します。 興奮さめやらぬ皆さんとお話ができることを楽しみにしています。

日時：2017年8月4日（金） 11：00～12：00  
会場：A112 教室

プログラム（参加人数により、時間を変更することがあります）

11：00～11：10 オリエンテーションとグループ分け

\*グループは、当日おしらせします。

11：10～11：30 グループ内での話し合い

（活動内容、参加者の反応、困ったこと、改善のための提案など）

11：30～11：50 各グループの発表

11：50～12：00 まとめ

報告会班（通称：振り返り隊） 理学療法学科 漆畑、マイケル・スミス

## 参加者一覧

運行班（付き添いグループ）		
1	来賓隊列	出雲 祐二
2	来賓隊列	藤本 幸男
3	付添い	館花 夏海
4	付添い	山本 紘歌
5	付添い	藤田 明日美
6	付添い	高橋 琴音
7	付添い	川村 夏央
8	付添い	瀧澤 綾華
9	付添い	阿部 悠花
10	付添い	坂井 美香
11	付添い	村木 絵美
12	付添い	小山内 亜美
13	付添い	印南 紗来
14	付添い	小田桐 瞳子
15	付添い	武藤 楓佳
16	付添い	後藤 まなみ
17	付添い	土岐 郁菜野
18	付添い	小笠原 璃南
19	付添い	佐藤 真凜
20	付添い	赤石 清夏
21	ハネト	小笠原 美里
22	ハネト	中野渡 千峰
23	ハネト	熊谷 優里
24	ハネト	赤石 明
25	ハネト	奥山 莉奈
26	ハネト	菊地 緑理
27	ハネト	石上 寧子
28	ハネト	木村 夏菜子
29	ハネト	工藤 瑠美
30	ハネト	岡本 佳華
31	ハネト	工藤 千尋
32	ハネト	石橋 凧沙
33	ハネト	植田 晴菜
34	ハネト	三嶋 詠
35	ハネト	大橋 理生
36	ハネト	田端 亜衣
37	ハネト	恐神 渚
38	ハネト	山岸 彩乃
39	ハネト	可香 あきな
40	ハネト	前山 優花
41	ハネト	長谷川 季里
42	ハネト	川向 夏生
43	ハネト	伊藤 穂香
44	ハネト	早坂 友里
45	ハネト	青山 紗弓
46	ハネト	田辺 安見
47	ハネト	小林 光希
48	ハネト	中村 翠
49	ハネト	高際 香澄
50	ハネト	中嶋 奈美
51	隊列リター	長畑 まり杏
52	隊列リター	西村 奈津美
53	学生取りまとめ	谷川 涼子
54	学生取りまとめ	小笠原メリッサ
55	公園待機	佐藤 知恵子

運行班（のぼり・大うちわ・給水等）		
56	のぼり	杉山 克己
57	のぼり	石田 徹
58	のぼり	千葉 武揚
59	のぼり	小山 達也
60	のぼり	今野 審
61	のぼり	鹿内 亮一
62	のぼり	岡田 敦史
63	のぼり	笠原 達矢
64	大うちわ	川村 大地
65	大うちわ	佐藤 拓郎
66	ブラカード	齊藤 唯菜
67	ブラカード	横山 亜友美
68	ブラカード	山岡 純子
69	拡声器	高谷 憲
70	拡声器	川嶋 尚孝
71	給水車	石切 麻希子
72	給水車	及川 華奈
73	給水車	高谷 奈美
74	給水車	鎌田 美鐘
75	給水車	小田野 さくら
76	給水車	小山 いずみ
77	医療用リヤカー	秋本 日向子
78	医療用リヤカー	麻生 実央
医療班		
79	医療班	大西 基喜
80	医療班	渡部 一郎
81	医療班	角濱 春美
82	医療班	小池 祥太郎

備品班		
83	丸岡 桃子	
84	阿部 桃香	
85	成田 梨乃	
86	秋田谷 遥七	
87	中村 恵理香	
88	中村 友実香	
89	成田 真里実	
90	宮崎 愛理	
91	佐藤 小夏	
92	原 華鈴	
93	金澤 佐依	
94	伊藤 香奈	
95	今 沙耶佳	
96	佐藤 茜月	
97	菅沼 はる香	
98	赤井 はるか	
99	田中 美聡	
100	児玉 寛子	
食料班		
101	山村 莉央	
102	村中 みさき	
103	柴田 瑠奈	
104	八木橋 華春美	
105	森 彩華	
106	小鹿 由莉乃	
107	監物 亜美	
108	逢見 加奈	
109	但野 日向子	
110	佐々木 琴美	
111	大野 智子	
112	乗鞍 敏夫	
設営班		
113	永桶 夢子	
114	後藤 大地	
115	浅利 太貴	
116	佐々木 佑子	
117	松井 あさひ	
118	二子 茜	
119	鈴木 嘉門	
120	安田 圭吾	
121	宇野 明日真	
122	田中 遥菜	
123	赤井澤 康葉	
124	福澤 芽依	
125	須長 佳太郎	
126	野村 水稀	
127	漆畑 俊哉	
128	マイケル・スミス	
129	山田 伸	
130	千葉 茜	
131	佐藤 絵里	
132	八木橋 まなみ	
133	小林 未奈	
134	樋口 彩子	

保健大学教職員

## ケア付きねぶた推進委員会の活動概要

- 第1回：5月12日（金）11時～12時
- 第2回：6月23日（金）10時30分～11時
- 第3回：7月18日（火）9時～9時40分
- 第4回：8月2日（水）13時20分～13時30分
- 第5回：9月8日（金）10時30分～11時15分

- ① ボランティア募集  
5月から7月までの間で、ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。
- ② ボランティア養成講座の実施  
6月9日（金）に第1回ボランティア養成講座、7月22日（土）に第2回ボランティア養成講座を開催しました。
- ③ オリエンテーションの実施  
7月22日（土）10時45分から、ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配布・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。
- ④ バスの手配  
ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバスその他、大型バスを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。
- ⑤ しおりの作成  
学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を収めました。
- ⑥ 事前説明会の実施  
8月2日（水）10時30分からボランティア参加学生を対象、13時から教職員を対象とした事前説明会を開催しました。学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けたり、教職員には当日スケジュール等について説明しました。
- ⑦ 推進委員の参加  
推進委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班に推進委員を配置することで、万一のときの連絡体制がとれるようにしました。
- ⑧ 学生の識別  
活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルTシャツ、防水加工したステッカーを作成、配布しました。ステッカーは学生や教職員を色別に分けました。
- ⑨ 医師・看護師の派遣  
実行委員会からの要請により、医師2名、看護師2名を派遣しました。

⑩ プライマリー・ケア担当学生

実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。

⑪ カメラマン

本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。

⑫ 活動を振り返る会

8月4日（金）に、活動を振り返る会（報告会）を開催しました。



平成 29 年度  
ケア付きねぶた推進委員会

顧問	学 長 上泉 和子
委員長	地域連携推進・国際センター長 出雲 祐二
学生部	学生部長 杉山 克己
看護学科	准教授 谷川 涼子 助 教 石田 徹
理学療法学科	講 師 漆畑 俊哉 助 教 マイケル・スミス
社会福祉学科	准教授 児玉 寛子 講 師 岡田 敦史
栄養学科	准教授 大野 智子 講 師 小笠原 メリッサ
事務局	
教務学生課	課 長 鹿内 亮一
地域連携推進課	総括担当 川嶋 尚孝 主 査 佐藤 知恵子

発行：ケア付きねぶた推進委員会  
平成29年10月